

ちひろ美術館 絵本の専門美術館の取り組み

全国博物館長会議(第28回)



ちひろ美術館・公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館の歩み

私たちの美術館は、今日、世界ではじめての絵本の専門美術館といわれますが、ちひろ美術館の40年余りを振り返りますと、今回の受賞を含め、創設の時代に比べて、美術館、博物館の世界も、世の中が大きく変化してきたことを実感しています。

「世界中のこども みんなに平和としあわせを」



いわさき ちひろ(1918－1974)

ちひろ美術館の誕生まで

「世界中のこども みんなに平和としあわせを」という言葉を残し、子どもを描きつづけた画家で、その最後の作品は、ベトナム戦争の終結を願って描いた『戦火のなかの子どもたち』という絵本です。

画家の死後、遺族は、人々が望むのであれば、ちひろの作品を家族だけのものにするのでなく、多くの人に見てもらいたいと考え、その全遺作と著作権、資産の一部を寄贈して、1976年に財団法人いわさきちひろ記念事業団（平成25年に公益財団法人に認定）を設立しました。ちひろ美術館建設の報に、全国から多くの人たちの励ましや期待の声やご寄付が寄せられ、1977年にいわさきちひろ絵本美術館が開館しました。

当時は、まだ絵本のための絵が、美術作品だと考えられていなかった、美術品として扱われていなかった時代。美術館での絵本原画展は一般的ではなく、わずかに先進的な動きとしては、1976年に西宮大谷美術館が公立美術館としてははじめて絵本原画展に取り組まれたということがありました。



花のなかの子どもたち



母の日



焰のなかの母と子 （絵本『戦火のなかの子どもたち』より）

いわさきちひろ絵本美術館

建設資金募集のおねがい

いわさきちひろは、約五千点の作品を残して世を去りました。昨年より原画の常設展示場を求める声が高まり、いわさきちひろ絵本美術館建設のために、いわさきちひろ記念事業団が設立され、活動を開始しました。美術館建設には約六千万円の資金が必要ですが、この計画に皆様の御協力をおねがいます。次第でございます。

「いわさきちひろ絵本美術館」は、いわさきちひろが残した原画及び遺品、資料を展示、保管いたします。

また、付属図書室を設け、各国の絵本等を集め、広く愛好家、絵本作家、研究者等のために開放する予定です。

このような美術館は、日本はもろろん、世界にもほとんど例がなく、これが実現されるならば、日本の文化、特に絵本の発展のために大きな力を発揮するものと信じます。皆様、この美術館建設の趣旨に賛同され御協力くださることを心からおねがい申し上げます。



- 呼びかけ人
- 中谷 泰 (代表)
 - 宇野 重吉 (名誉)
 - 上條 恒彦 (名誉)
 - 杉田 ふき (名誉)
 - 久保 雅男 (名誉)
 - 久米 宏一 (名誉)
 - 黒柳 徹子 (名誉)
 - 斎藤 隆介 (名誉)
 - 滝平 二郎 (名誉)
 - 田中美智子 (名誉)
 - 東本 つね (名誉)
 - 富永 秀夫 (名誉)
 - 中田 喜直 (名誉)
 - 中原ひとみ (名誉)
 - 松谷みよ子 (名誉)
 - 松本 善明 (名誉)
 - 丸岡 秀子 (名誉)
 - 箕田源一郎 (名誉)
 - 宮城まり子 (名誉)

1979年10月現在

夢の絵本美術館実現へ

原画4千点など展示

勉強・調査のセンターに

建設資金のおねがひ先き
左記口座にお振込み願います。
金額は多少のよにも自由によります。
①郵便振替口座 東京一三二八番
★左の振替をご利用ください。
②富士銀行 東京支店
普通預金口座 七四八九番
③なお、基本明かりに金控はつきません。
だいたい、結構です。
いわさきちひろ記念事業団
〒100 東京都千代田区下石神井四の七の二
電話 〇三・九五八四〇

いわさきちひろ絵本美術館に寄せて

白いちようちよ

滝平二郎

人ごみのなかで、いきなりちひろさんに会ったことがあった。白い帽子がよく似合っていて、まるでちひろちゃんのようなようだった。町の雑踏まで、お花畑にかわったように私には思えた。
白いちようちよを見ると、ちひろさんを出す。

みんなの願い

黒柳徹子

この前、デパートの中で開かれた、ちひろさんの遺作展に何って、その混雑と、そして若い人も中年の人もみんなが、一枚一枚の作品を丁寧に見て、「可愛い」とか「素晴らしい」とか感想をいってあつたのにも驚きました。いつ行ってもちひろさんの絵が見られる美術館、それは、美しいものを愛する人、みんなの願いといってもいい——と、私は思っています。

そんなとき、ぼくは

上條恒彦

食卓のうえのちいさいな花瓶に、たどたどしく花が差してあって、それはもう何日もそうしてあるの、花は元気がないのだけれど捨てがたくて……。そんなときぼくは、ちひろさんの本を出して、何度もくり返し見ることにして。

紫陽花

宮城まり子

なんだか荒れはてたさくらだったかな。今、このころ、私は細糸のような雨のふるなかで、しっかりと、根をはって、やさしい色で咲いている美しい紫陽花の花をみる。ときどき、いわさきちひろ先生の絵のかずかずの、ひとつひとつが心の中心で、ぽつぽつと静かなたたずまいの、美術館ができて、そこにみんなを招くのを考えるだけで、とても心豊かになって、涙がそうになるのです。



中谷 泰

執ような追求

ぼくはちひろさんが、童画にいくまへの、手あたり次第、描きまくっていた頃のデッサンが好きです。
あの執ように自己のテーマを追いかける姿勢を、絵本や童画を思ふかは別として、若い絵かきにみてももらいたいと思います。

世界の絵本も

松谷みよ子

この美術館には、ちひろさんの絵本ばかりでなく、世界の絵本があつめられるといえます。
絵本を愛する人々が、ここにあつまることで、ちひろさんは、どんなにかよこごばれることでしょう。完成が待たれます。

ピカソより好き

中田喜直

いわさきちひろさんの絵は、子供の時からずっと好きだった感じがします。自分で沢山買って、何時も見ていた気持ちです。ピカソより好きですから、ピカソより高いと思つて、つい買ひこねました。
でも、自分で独占するより、美術館が出来て、多くの人が見られるようにならば本当に素晴らしいと思います。

いわさきちひろ絵本美術館 建設資金募集のおねがい

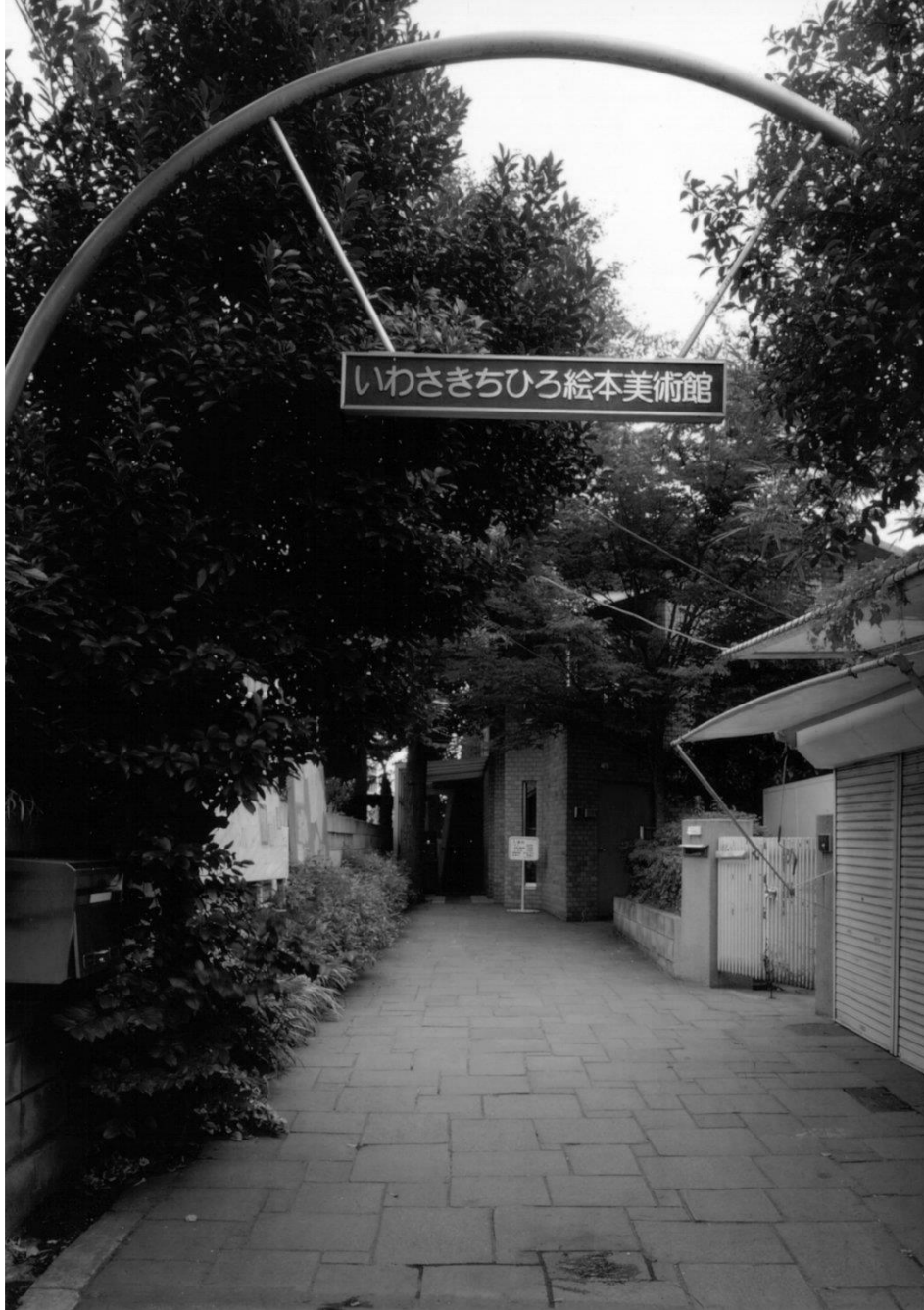
ちひろ美術館の誕生

「世界中のこども みんなに平和としあわせを」というちひろの願いとその作品を後世に伝えたいと考える小さな財団の美術館は、ちひろだけでなく、国内外の絵本の美術を対象として捉え、

「絵本を中心とする文化全体の民主的多面的な発展に寄与」し、
「散逸しやすい絵本原画の収集・保管・研究・公開」を目的に掲げて、活動をスタートしました。

そして、東京館が開館して20周年にあたる1997年に、長野県の安曇野に安曇野ちひろ美術館を開館し、現在は、2つの美術館で、活動をしています。

美術の主流にはあまり位置づけられることのない絵本に取り組んだ先駆性と40年余の地道な活動が、この度の受賞に繋がったのであれば、一層、誇らしいものがあります。



いわさきちひろ絵本美術館(現、ちひろ美術館・東京) 1977～

15000坪の公園のなかにある
安曇野ちひろ美術館 1997～



全面建て替えを行った
現在のちひろ美術館・東京 2002～



コレクションと展示

現在、当館には、

世界35の国と地域、210人の画家の27,450点のコレクション(2021年3月現在)を所蔵し、

ちひろの展覧会をはじめ、国内外の絵本画家の展覧会や、時代時代で変化する絵本の表現を定点観測的に捉える展覧会にも取り組んでいます。

日本は今日、30近い絵本美術館があり、板橋区立美術館での「ボローニャ国際絵本原画展」をはじめ、公立美術館からギャラリーまでさまざまな場で、年間400を超える大小の絵本原画展が開催される、世界的にも稀有な国です。



『ちひろ美術館の40年』より

世界の絵本原画コレクション
世界35の国と地域、210人の画家、27,450点

(2021年3月31日現在)

開催してきたさまざまな展覧会



No. 73



No. 75



No. 76



No. 77



No. 78



No. 74



No. 93



No. 79



No. 82



No. 81



No. 84



No. 83



No. 85



No. 86



No. 88



No. 87



No. 89



No. 80



No. 90



No. 91



No. 92



No. 94



No. 95



No. 96

開催してきたさまざまな展覧会



No. 95



No. 96



No. 97



No. 98



No. 99



No. 100



No. 101



No. 102



ちひろ再発見
～ちひろの足跡～

No. 103



No. 104



No. 105



No. 106



ちひろ美術館
開館20周年記念展

No. 107



No. 108



No. 109



No. 110



No. 111



No. 112



No. 113



No. 114



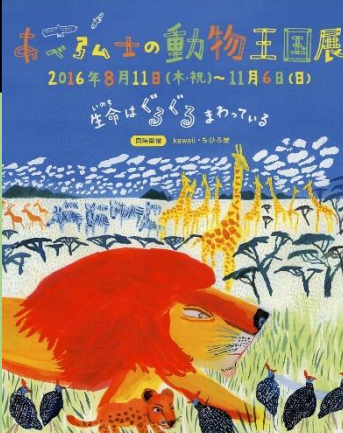
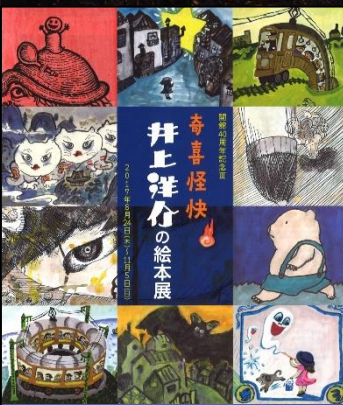
No. 115



安曇野ちひろ美術館

1997年4月19日オープン

開催してきたさまざまな展覧会



赤羽末吉
あきびんご
あべ弘士
荒井良二
安野光雅
伊藤考別
井上洋介
いわさきちひろ
いわむらかずお
上野紀子
宇野重吉良
太田大八
大竹伸朗
岡部孝彦
かこさとし
梶山俊夫
片山健
北澤寿夫
木暮井悦子
五味太郎
さむやゆき
さとうはるこ
佐野洋子
清水良雄
杉浦敬茂
スズキコジ
瀬川康男
せなけいこ
武井雄雄
武田英輔
竹久夢二
田島征三
田島征彦
谷内こうた
田畑精一
わたしげり
長新太
出久根育
中谷千代子
西条孝子
西村英男
はたこうしろう
初山登
馬場のぼる
須田桂子
100%ORANGE
深澤孝三
堀内誠一
丸木健
ミロコマチコ
村上康成
村山知義
茂田井武
元水定正
八島太郎
新内正幸
山本孝子
わかやまけん
和田誠
無邪気・50音順



開館20周年記念 Ⅲ

日本の絵本100年の歩み

2017年7月8日(土) - 9月12日(火)

本展は、ちひろ美術館・東京(11月8日~2018年1月31日)に巡回します。

主催：ちひろ美術館、信濃毎日新聞社
後援：絵本学会、(公)全国学校図書館協議会、(一社)日本児童図書出版協会、(一社)日本児童出版
美術家連盟、日本児童図書出版協会、(公)日本図書館協会、長野県教育委員会、松川市教育委員会



1: 清水東馬 鳥の図り「赤い鳥」(創刊号)
2: 1918年/2: 初山登 藤沢ウツシマス
3: 「ふくろ」(1918年)のちひろの「ふくろ」
4: 1918年/3: 丸木健「ふくろ」
5: 「だるまちゃん」より 1966年/4: かこさとし
6: 「だるまちゃん」より 1966年/5: 赤羽末吉
7: 「だるまちゃん」より 1966年/6: 田島征三「だるまちゃん」(創成社)
8: 1967年/7: 長新太「だるまちゃん」(創成社)
9: 1967年/8: 山本孝子「だるまちゃん」(創成社)
10: 1967年/9: 山本孝子「だるまちゃん」(創成社)

教育活動、普及・支援活動、国際交流

私たち、ちひろ美術館は、絵本を「人が初めて出会う美術、文学」であり、「0歳から100歳を超える人までが楽しめる文化財」であり、そして、「言語の違い、文化の違いを超えて、誰もが楽しめる文化財」と考えています。そうした絵本の文化を通じての教育活動、絵本文化の普及・支援の活動、国際交流等も行っています。



線のワークショップ

教育活動@東京

子どもたちへのギャラリートーク





おはなしの会

教育活動@安曇野



出前授業

中学生ボランティアの活動@安曇野

教育活動の一つとして、安曇野館で2002年以来、20年近く続けてきた「中学生ボランティア」。

地元、松川村の全校300人の中学校の半数以上が登録して、毎夏休みに参加してくれています。

中学生は基本研修を受け、インストラクターとして、来館者に「ちひろの水彩技法のワークショップ」や「絵本の読み聞かせ」、「館内ツアー」「バックヤードツアー」のガイドや、「展示案内」等を行います。

ー中学生ボランティア 2002年～



いわさきちひろの作品解説と水彩技法体験



絵本の読み聞かせ



館内・バックヤードを巡るツアーと作品紹介

普及・支援の連携活動 ファースト・ミュージアム

絵本は「人が初めて出会う美術であり、文学」とお話しましたが、
そうした意味からも、私たちは、人々、子どもたちにとっての
「ファースト・ミュージアム」でありたいと考え、あかちゃんを対象とする活動も積極的に行ってきました。

また、美術館に来館することが難しい、病院で過ごす子どもたちや
大人の人たちに楽しんでもらおうと取り組んでいる「院内展示」の
様子です。

絵本文化の普及・支援 連携活動@東京



あかちゃんのための鑑賞会

わらべうたあそびの会



絵本文化の普及・支援 連携活動@安曇野

絵本との出会いの時間@保健センター



ファースト・ミュージアムデー (あかちゃんと絵本を見る活動)

普及・支援の連携活動 院内展示

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター いわさきちひろピエソグラフ展の様子



こども棟入り口前廊下



鑑賞の様子1



鑑賞の様子2



鑑賞の様子3

東京女子医科大学病院

聖路加国際病院

長野県立こども病院

埼玉医科大学
総合周産期母子医療センター

国立成育医療研究センター

同センター内
子どもホスピス「もみじの家」

普及・支援の連携活動 地域連携でのトットちゃん広場

美術館や博物館は、さまざまな異なる価値観が集まる場とありますが、さまざまな分野で生きる人たちが、出会い交流し、新たな文化を生む場、そうした機会を提供する場でもあると思います。

こうした試みのひとつとして取組んだのが、村や地域のさまざまな人たちと協働して2016年に安曇野ちひろ美術館をとりまく公園に生まれた、『窓ぎわのトットちゃん』の電車の教室や図書室を再現したトットちゃん広場の活動です。

ここは、無料空間で誰でも自由に楽しめる空間です。

そこでは、第一次基幹産業である同地のさまざまな人たちが関り、農業体験や運動会、肝だめしなど、たくさんの活動が行われる場に育ってきています。

トットちゃん広場

@松川村・安曇野ちひろ公園
2016.7.23~





トットちゃんの電車の図書室



トットちゃんの電車の教室



地域との連携活動 電車の教室の椅子や机を制作してくれたのは、隣町の 池田工業高校の生徒たち



地域との連携活動
開園に向け計画を練る地元・松川村の
トットちゃん広場サポート隊



地域との連携活動

飯盒炊さん
と
リンゴの摘み取り



地域との連携活動
田植えから 稲刈りまで



国際交流

ちひろ美術館では、欧米のだけでなく、近年は、特に韓国、中国、台湾、ベトナム、インド、インドネシア、タイ、シンガポール等、アジアの国々との交流を深めてきました。各国での、いわさきちひろや日本の絵本の展覧会や、関連のワークショップやシンポジウム等さまざまな活動を行うとともに、各国からも絵本、絵本美術館に関する研修の受け入れをしました。さまざまな国の仲間が手を繋ぎ、理解し合うことは、私たちの平和な未来に繋がることを、強く感じる活動です。

国際交流



韓国・金海芸術の殿堂(上)と済州現代美術館での「いわさきちひろ展」 2010-2011



ベトナムでの「いわさきちひろ展」 2006



インドネシアにおける
ちひろと日本の絵本画家展 2019年



台湾国立歴史博物館での「童・樂 いわさきちひろ原画展」2018



作品保存の研修



松川村の子どもたちの
ワークショップ



研修生の受け入れ
(韓国の絵本作家のグループ)

2020年コロナ禍での活動

しかし、100年に一度と言わされるパンデミックにみまわれた昨年は、多くの館と同様に、臨時休館を余儀なくされ、計画していた活動も中止、延期を行うなど、初めての経験をしました。

それでも、世界的な感染拡大で、人與人、国と国を分断する動きが加速していると言われるなか、私たちに美術館は何ができるか？ということを改めて問いつづけた一年。

大人も子どももみなが不安で先が見えないような気持の日々でも、ほっとしたり、元気が出たり、何より、未来への希望が感じられる活動をしたい！しよう！と、オンラインでの活動にも挑戦。

SNSでの配信やオンライン・ツアーにも取り組み、

海外の人々とは、韓国やシンガポールではオンライン展覧会の開催や、シンポジウム等で繋がり、また、第1回日本博物館賞の受賞を受けて、国際博物館協会の提携機関であるBest in Heritageのオンラインでの世界大会にも参加させていただき、世界に向けて当財団・美術館の理念や事業を伝える機会にも恵まれました。

2020年度 オンラインによる教育活動・普及活動

12月20日

あかちゃん・子どものためのオンライン鑑賞会@東京



2021年2月13日

オンラインツアーの開催@両館



2021年2月10日～3月31日
アーカイブ動画の製作とオンライン有料配信
(文化庁委託事業文化芸術収益力強化事業)

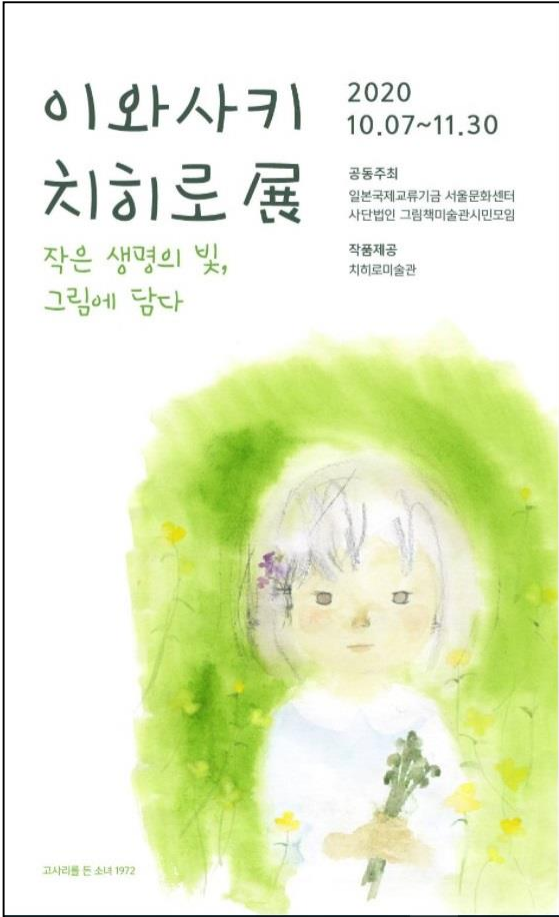


安曇野館

東京館

6月6日
アジア子どものコンテンツフェスティバル(AFCC)
オンライン展覧会のためのシンポジウム

10月7日～11月30日
韓国におけるオンライン展覧会の開催



9月～ Best in Heritage のオンライン世界大会でのプレゼンテーション

Search:

search

▶ Browse by year

▶ Browse by category

▶ Browse by country

View all



Chihiro Art Museum

Japanese Museums Association Award 2019

The First Picture Book Museum in the World

Michiko Matsukata
Chihiro Art Museum Aomine

Chihiro Art Museum
4 Chome-7-2 Shimashekujiri, Nerima City,
Tokyo 177-0042, Japan
03-6360-0000



TBIH2020: Chihiro Art Museum

後で見る 共有



#TBIH2020
CHIRO ART MUSEUM

2021年度

ただ今、未来に向けて、夢プロジェクト進行中！



未来にむけて！

今、安曇野では、感染予防で制約の多い中ではありますが、出前授業や屋外でのワークショップ、webによるワークショップに取り組み、「夢プロジェクト」と題して、地元の子どもたちをはじめ、参加可能な各地の人たちに「ちひろの水彩技法をいかしたオーナメント」を作って、そこに一人一人の夢を書いてもらう活動を行っています。

今こそ、美術館や博物館が人びとを励まし、時に慰め、明日への元気を培っていく場として、その役割が求められていることを確信し、止まることなく歩んでいきたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

ありがとうございます。